

安中まちづくり協議会

人口	6,150人
世帯数	2,921世帯
設立	令和4年12月8日

(令和7年1月末現在)

地域の現状と課題

島原市の一番南側に位置し、南島原市と隣接している安中地区は、雲仙・普賢岳噴火災害により甚大な被害を受けました。「島原地域再生行動計画(がまだす計画)」をはじめとする復興事業において、自然災害に強いまちづくりが進められ、住民同士の絆が強い地域です。

現在、島原市においても少子高齢化、人口減少が進んでおり、これにより生じる様々な問題に直面する前に、新たな組織づくりに取り組む必要がありました。安中地区では、防災に対する住民の危機意識に加え、これまで開催してきた安中夏祭りの実行委員会が人手不足に陥っていたことなどが、新しい地域コミュニティのあり方を考える契機となりました。

具体的な動きとしては、はじめに、平成31年3月に町内会長、PTAをはじめ地域の各種団体に声をかけて「安中まちづくり座談会」を開催しました。また、先進地視察研修や県庁での打ち合わせなどを経て、令和元年11月、第1回設立準備会を開催しました。その後、計11回話し合いを重ね、コロナ禍で集まることができなくなった時期もありましたが、令和4年12月に島原市で初めての地域運営組織となる「安中まちづくり協議会」の立ち上げに至りました。

<拡大図>



設立総会



鬼火焚き



夏祭り

現在の主な活動内容

○安全安心活動の支援

- ・子どもたちの登下校時の見守り対応の継続
- ・防災避難訓練(1回/年)
- ・自主防災活動強化月間(各町内会)11月

○ふれあい活動の支援

- ・ふれあい運動会
- ・安中梅林梅収穫
- ・夏祭り
- ・鬼火焚き

○環境保全活動の支援

- ・われん川・北上木場農業研修所跡周辺等の除草作業
- ・安中梅林 剪定作業

<協議会組織図>

安中地区「全住民」

役員

会長・副会長・理事会計・監事・事務局長

一緒にしましょう会
(安中地区の女性)

構成団体員

町内会・自主防災会・青少協・民生委員児童委員・育友会・交通指導員・補導委員・長寿会・食改・おもてなし会・かっぱう着クラブ・Ji~y o字 夏祭り実行委員会・安中梅林を守り育てる会



<安中梅林>

江戸時代からあった梅林は、被災し消滅してしまいましたが、第五小学校の卒業記念など地域を上げて植栽し、今では約600本の「安中梅林」として、復興伝承のシンボルとなっています。

長年、安中夏祭り実行委員会が行っていた安中夏祭りの開催が人手不足により危ぶまれた際に、地域で活動する他の組織が一緒になり、地域総がかりで取り組むこととなりました。そのことをきっかけに、夏祭りに限らず、小学校の運動会や地域活動も、当協議会と一緒に準備や片付けをし、人手不足の解消につながっています。

新しいことを始めることはなかなか難しいですが、このように既にある行事を、総がかりで一緒に取り組むことで、年齢・職場の垣根を越え、住民同士のつながりが広がっています。地域活動は、工夫次第で楽しくやっていると伝えることを伝えたいです。



安中まちづくり協議会
会長
阿南 達也さん

住民が、現在行っている行事や清掃活動に楽しく参加してもらうことが重要だと考えています。

そこで地域住民同士が絆を深め、郷土愛を育むことができれば、町内会や自治会に入ってみようとか、役員になってみたいとなるのではないかと期待しています。

新しい行事や取り組みを積極的に始めるよりも、今までやってきたことを無くさないように、長く続けていきたいという思いで、楽しく取り組んでいます。



“あっちゃん”

安中まちづくり協議会の
イメージキャラクター

行政からの支援

本市では、新しい地域コミュニティづくりを支援するために、担当部署を設け、下記の取り組みを行っています。

<人的支援>

集落支援員制度を活用し、安中まちづくり協議会の支援のほか、各地区の活性化を図っています。

<財政的支援>

幅広く地域活動を支援するため、島原市女性の地域活躍推進事業補助金を交付しています。

今後の課題・展望

子どもたちが未来永劫、幸せに安全・安心に生活できるように、地域づくりをしていきたいとします。そのために、これまで行われてきた行事を継続し、また、災害に強いまちづくりを進めていく必要があります。

今後、より良い活動を続けていくため、安中梅林を観光資源として、また地域おこしにも活用できないか、さらに、収益確保のため約600本の梅林から採れる梅の実を活用した商品開発についても、前向きに検討したいと思っています。

取材を経て

噴火災害を経験した安中地区の皆さんだからこそ、防災の意識が高く、子どもたちが永遠に安全・安心に過ごせるまちづくりにお力を注がれていることが伝わりました。

また、少ない活動資金や人手不足といった課題も工夫を重ね取り組むことで、さらに住民同士の絆が深まる結果につながるなど、島原市におけるモデル地区として先進的な取り組みとなっていると感じました。

まとめ

- ① 島原市で初めてとなるまちづくり協議会であり、モデル地区となっている。
- ② 各種団体が協議会に加わることで、人手不足を解消している。
- ③ 新しいことを始めるよりも、これまでやってきたことを守り続けることに注力。